

学習成果を把握(測定)する方法(社会学部)

	時期	方法	学習成果・学位授与方針との関連
社会学部	「入門期」(1年次)	入門科目や総合科目を通じた導入教育、基礎演習等の少人数教育やアクティブラーニングの場での取り組みと成果により評価する。	社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる(DP1)
	外国語カリキュラム等(1年次～4年次)	外国語カリキュラムや外部英語能力試験、SAプログラム、単位認定海外短期留学制度等の成果を通じて、世界で生き抜く能力、国際通用性が養われているか評価を行う	DP1～DP3の成果を人々にわかりやすく伝える手法を駆使することができる(DP4)。
	「能力形成期」(2～3年次)	講義科目や実習科目等の授業内での学習・研究活動の発表、専門演習における論文執筆、作品制作等の教育ならびに研究成果の実績・評価等を用いて評価する。	社会現象に関する問いを立てることができる(DP1)。データや資料の分析によって問いに対する答えを見出すことができる(DP2)。問題解決の方法を構想することができる(DP3)。それらを人々にわかりやすく伝える手法を駆使することができる(DP4)。
	「総仕上げ期」(4年次)	卒業論文、単位修得状況、成績評価等を用いて、ディプロマ・ポリシーで求める専門知識・能力が身についているかの評価を行う。	社会現象に関する問いを立てることができる(DP1)。データや資料の分析によって問いに対する答えを見出すことができる(DP2)。問題解決の方法を構想することができる(DP3)。それらを人々にわかりやすく伝える手法を駆使することができる(DP4)。
	卒業時	就職状況、卒業生アンケート等を用いて、「自由を生き抜く実践知」が身についているか評価を行う。	DP1～DP4の学習成果を基盤として、それらを進路先(就職・大学院進学等)で最大限に活かすことができる。